

ばれっと

まだ*これ 合併号

2011
7月
No.143

●目次

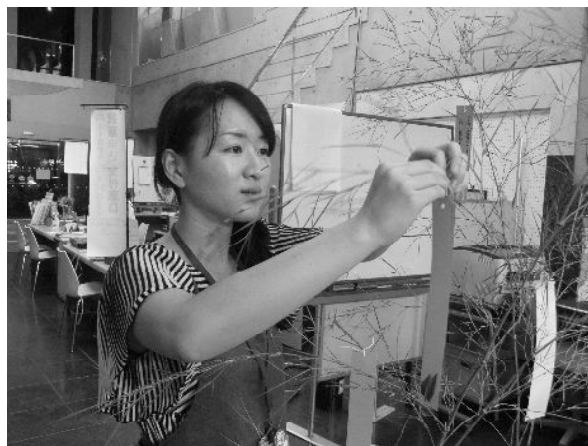
- P2~3 仙台のまちに元気と勇気を
- P4~5 地域で活動するNPO
- P6 市民活動サポートセンターからのお知らせ

ともに、前へ！仙台

東日本大震災 特別号④

東北6県を代表する夏祭りが仙台に集結する「東北六魂祭」が7月16日(土)~17日(日)に開催されます。仙台七夕まつりも8月5日(金)の前夜祭も含めて予定通り8月6日(土)~8日(月)に開催されることが決まりました。

復興のシンボルとして、また、被災地を元気づけるために、様々なイベントが開催され始めています。



▲サポセンにも「子育て支援グランマ」の呼びかけで老若男女が参加して作った七夕飾りが登場しました。皆さんもぜひ、短冊に願いをかけてくださいね。

■ご利用案内■

<開館時間>

平日 午前9時~午後10時
日曜・祝日 午前9時~午後6時
休館日 5月~8月 毎月最終水曜日
9月~ 第2・第4水曜日

●仙台市市民活動サポートセンターは、市民活動団体・NPO等の復興支援・まちづくり支援の一環として、9月30日(金)まで無料で貸室をご利用いただけます。

東日本大震災 ～その時～

仙台のまちに元気と勇気を

これまで市民に親しまれてきたイベントの開催は、仙台のまちの復興への歩みを進めるきっかけとなっています。今回は、震災後の自粛ムードを受けながら、例年どおり行うべきか否か悩み、さまざまな葛藤を抱えながらもイベントの開催を決定した3つの市民団体の想いをお伝えします。

♪ 音楽のチカラで、復興への確かな一歩を とっておきの音楽祭実行委員会SENDAI

とっておきの音楽祭SENDAI（以下、とっておきの音楽祭）は、障がいのある人も無い人も一緒に音楽を楽しみ、「音楽のチカラで心のバリアを打ち壊そう！」をスローガンに、2001年から始まった音楽祭です。実行委員会形式で運営されており、今年も6月5日の開催に向けて着々と準備を進めていた矢先、東日本大震災が発生しました。

実行委員会の中で音楽祭開催の是非を議論しつつ、エントリー済みだった298団体に対して、安否の確認とともにアンケートを行いました。その結果、270団体以上から開催を望むメッセージが届きました。「たとえ1ステージしか確保できなくても開催する」そう決めた時には開催まで2カ月ほどしか時間が残っていませんでした。

短い準備期間の中、ステージ確保、広報活動、出演団体との調整、ボランティアの募集などに奔走。結果的に、出演団体数286、ステージ数30という、とっておきの音楽祭史上、最大のイベントへと発展していました。

さらに、被災地の地場製品の販売所を開設するなど、復興支援の企画を随所に盛り込みました。市民活動サポートセンターも、とっておきの音楽祭からお声がけいただき、せんだいメディアテーク内に



▲ サポセンの「被災地ボランティア・NPO情報ブース」



▲ 野外音楽堂でのステージ演奏



▲ ケヤキ並木の定禅寺通りにも歌声が

「被災地ボランティア・NPO情報ブース」を開設。ボランティアやNPOの活動の情報発信や相談への対応を行いました。

今回、震災後初の音楽祭を開催するにあたり団体として特に注意したことが、「団体内部と社会の両方に対して、その開催の意義をきちんと説明する」ということでした。「準備時間は少なくとも、みんなが納得できる音楽祭にしたい」そのために自らに課したルールでした。おかげで、実行委員からボランティアまで、例年以上にも増して団結力があつたそうです。

音楽祭当日は、約24万人の市民が集い、まちにはあたたかい笑顔と、復興への思いが溢れていました。
(高橋陽佑)

とっておきの音楽祭実行委員会SENDAI

【代表者】 実行委員長 鈴木 弘

【連絡先】 仙台市青葉区本町2-9-3 6F

TEL 022(265)0980

FAX 022(716)5717

【E-mail】 info@totteokino-ongakusai.jp

【ウェブサイト】 <http://totteokino-ongakusai.jp>

♪ アフリカケニアからの祈り、元気お届け

NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ

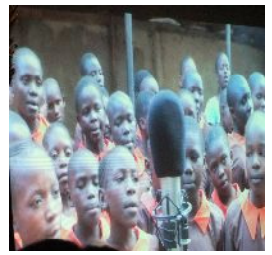
東日本大震災の発生から3ヶ月余りが過ぎた6月13日(月)、仙台市内の民俗料理店にて、NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ(以下、アマニ・ヤ・アフリカ)主催の「Prayers from Kenya for Japan〜祈り〜ケニアから日本へ」が開催されました。遠くケニアからの「祈り」を被災地へ届けるために、急きょ開催されたこの催しには、多くの方が詰めかけ、祈りに耳を傾け、ケニアの民俗音楽のライブから元気をもたらしていました。

日本を襲った大震災のニュースは、アマニ・ヤ・アフリカが長年支援を続けているケニアのスラム街にある学校「マゴソスクール」にも届きました。マゴソスクールの子どもたちは、大震災の知らせを聞いて、とても悲しみ、祈りを捧げ続けたそうです。「自分たちにできることは祈ること。日本へこの祈りを届けたい」。会場のスクリーンには、涙を流し、全身全霊で祈りを込めて歌う子どもたちの姿が映し出されました。その歌詞には「日本を想って涙が止まりません。私たちのお母さん、お兄さん、友達! 祈り続けています」というフレーズがありました。アマニ・ヤ・アフリカの長年にわたるケニアへの支援活動により、日本の支援者を親や兄弟、友達

のように慕っていた子どもたちにとって、今回の震災は決して他人事ではなかったのです。

第二部では、アマニ・ヤ・アフリカが、震災後、ゆかりのある方々や地域の物資支援から始まり、現在も被災地へ野菜を届ける活動などを行っていることが報告されました。ケニアから届いた祈りを胸に、機動力とネットワークを駆使して復興支援に関わる活動をしていることが伝わってきました。

最後に繰り広げられたライブでは、民俗楽器の調べや、アフリカならではの掛け声やダンスで大盛り上がり。ケニアからの熱意を感じて、元気を取り戻すことができた3時間でした。(太田 貴)



▲ ケニアからの祈り

NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ

【代表者】石原邦子

【連絡先】仙台市太白区鹿野2-18-7-706

TEL/FAX 022(247)4225

【E-mail】info@amani-ya.com

【ウェブサイト】http://www.amani-ya.com

♪ いままでと変わらぬJazzの響き

定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会

仙台市民に親しまれ21回目を迎えた定禅寺ストリートジャズフェスティバルは、今年も9月10日(土)11日(日)に開催が決定しました。今回のテーマは「音楽の星・地球〜ここから〜」。地球が音楽で包まれ、至福の時を共有できる喜びをここ仙台から発信していきたい。奇しくも震災前に決まっていたテーマは、未曾有の大震災に遭遇した今、平穏で音楽が楽しめる地球を取り戻したいという願いにつながるものとなりました。

「今年もこれまでと同じように祭りを楽しむことが、被災地からの復興のメッセージとなるはず」4月に入って実行委員会は、例年通りの9月のフェスティバルの開催を決定しました。参加者の募集は1カ月ほど遅れましたが、これまでの参加者に、安否確認も兼ねて参加申込みの案内を送付すると、エンターテインメント用の映像が用意できない…、昨年の音源ならあるのだけど…等々被災した方々からの問い合わせも多く寄せられました。

5月末に締め切った今年の参加申し込み数は、1,235団体。今後は、当

日ボランティアの募集、資金確保のための協賛金集めなどの準備が進みます。

一方で、東日本大震災復興支援JSFプロジェクトを立ち上げ復興支援活動も行っています。これまで、米国ニューオリンズから贈られた楽器を気仙沼ジュニアジャズオーケストラ「スウィングドルフィン」に届けました。また、震災直後は、炊き出しの支援活動をしている団体等と連携して、気仙沼や石巻でコンサートを行ってきました。

現在も世界中、日本中の音楽に関わる方々から、楽器や義援金が贈られてきています。今後は、音楽活動に困難が生じている被災者、特に子どもたちの音楽環境を整える支援に力をいれていきたいと考えています。21年間の実績と培ってきたネットワークは、復興支援活動を進める大きな力となっています。(葛西淳子)

定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会

【代表者】実行委員長 榊原光裕

【連絡先】仙台市青葉区国分町3-8-3

新産業ビル304

TEL 022(722)7382

FAX 022(722)8461

【E-mail】info@j-streetjazz.com

【ウェブサイト】http://www.j-streetjazz.com



▲ がんばろう宮城・石巻復興祈念イベント

●地域で活動するNPO

NPO法人 あかねグループ

震災前も後も変わらぬ支え合い活動と ネットワークづくりが機動力の鍵

あかねグループは、1982年設立の若林区遠見塚にある団体です。設立以来29年間「出会い・ふれあい・学び合いそして支え合い」をモットーに、地域の福祉拠点としての役割を果たしてきました。高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るよう、配食サービスや訪問介護、サロン活動などの地域住民による支え合い活動を行っています。

3月11日の震災の日。激しい揺れの中、あかねグループのメンバーは、自分の身よりも夕方配食するはずだったお弁当をしっかり守っていたそうです。理事長の武田美江子さんは、「“寒空の中で不安に震えている人がいるかもしれない、行かなきゃ”と泣きながら準備をするメンバーもいて、仕事としての責任感より、助け合い、支え合いの気持ちが強く動いていましたね」と、その時を振り返りました。そして、その気持ちはどのメンバーも同じでした。地震の30分後には食事を届けるボランティアも駆けつけ、結果的に118食分のお弁当を地域の方々にお届けしました。中には家に1人でいらした方もいて、配食のボランティアさんと顔を合わせたことで安心してもらえたようです。

震災2日後の13日から、あかねグループは一部の活動を再開。ライフラインはまだ復旧していませんでしたが、炭でご飯を炊き、残り火で豚汁を調理して配食を始めました。実際は動きながら出来る事を模索していました。ガソリンが無ければ自転車で配達するなど、メンバーが状況に応じて工夫し自主的に動いてくれたことで、震災直後を乗り切れたそうです。しかし余震が収まらない状況で、毎日メンバーやボラン

ティアさんが通えるかどうか、備蓄している食料はいつまで持つか等の不安は残っていました。

その不安は多くの団体からの支援により、少しずつ解消されることになりました。あかねグループが以前から参加している配食や住民参加型福祉の全国ネットワークから、物資やパソコンなどの支援が届いたのです。「震災後すぐ動き始めたこと、日頃から情報発信を意識していたことの結果だと思います」と、武田さん。

震災から約1か月後の4月16日、あかねグループは通常の活動を全て再開しました。これまでの復興について何うと「今回、自分たちの活動を守ることは出来ました。これは普段から地域と深く関わっていたから出来たのだと思います。今後、仮設住宅などへの配食も検討していますが、これまで同様、背伸びはしません。ゆるやかに2~3年関われば何か形が見えてくると思います。同じ地域の支え合いの一員として、ずっと長く関わり続けて欲しいと思っています」とのことでした。

あかねグループと地域のつながりは、これからも続いていきます。
(菊地竜生)



▲サロン利用者の方と談笑する武田さん



▲震災直後の炊き出しをするメンバー

NPO法人あかねグループ

【代表者】 武田美江子

【連絡先】 仙台市若林区遠見塚1-5-35

TEL 022(285)0945

FAX 022(282)4788

月~金 午前9時~午後5時

土曜日 午前10時~午後5時

【Eメール】 npoakane@violin.ocn.ne.jp

【ウェブサイト】 <http://www9.ocn.ne.jp/~akane-g/>

地域で活動するNPO●



▲メニューは豚汁とサラダ



▲手際よく調理する男厨会のみなさん

仙台男子厨房 に入ろう会

これまで積み重ねてきた実績と人脈を 震災復興支援に活かし、避難所の食を守る活動

6月初旬、避難所となっている若林区の六郷市民センターの調理室には、「仙台男子厨房に入ろう会（以下、男厨会）」のメンバー13名の姿がありました。調理は手際よく進み、夕食時に90余名分の豚汁とサラダが振舞われました。避難所の会長さんは、「4月末に自衛隊による炊き出しが終了してからは、一日3食お弁当の生活になりました。温かい汁物と野菜はたいへんありがたいです」と、野菜たっぷりの豚汁に舌鼓を打っていました。

男厨会は、「男子も厨房に入ろう」の基本理念のもと、料理を楽しみ、かつ食生活の向上、食文化の発展に寄与することを目的に、料理教室、料理パーティー、囲碁などの同好会活動のほか、要請に応じてボランティア活動も行っています。定年退職前後の男性会員が多く、長年の企業経験や人脈を活かした運営によって約200名の会員を擁する組織に発展してきました。そして、来年で30周年を迎えます。

震災後、男厨会はまず団体のメーリングリストなどを活用して、すべての会員の安否確認を行ったそうです。その後、「被災者に、肉じゃがなど栄養バランスの取れた副食的なものを提供する活動をしたい」と、真尾征雄（ましおゆきお）副会長が市民活動サポートセンターにご相談にいらしたのが3月末のことでした。

そして、その後、団体の臨時運営委員会、総会にて「この非常時に男厨会としてできるだけのことをし、復興、再建に協力していく」という方針を決定すると、本格的に活動場所が検討さ

れました。

会員の中に、六郷市民センターでの避難所生活者がいらっしやったので、その方にコーディネート役をお願いした結果、汁物とサラダなどの野菜中心の仕出しボランティアの活動を行うことが決まりました。6月以降、毎週金曜日の夕食時の提供を担当します。「大人数分の調理ですが、日頃の活動で慣れているので苦にはなりません」と真尾さん。また、野菜、果物、卵などの食材は、(株)舞台ファームから提供を受け、その他の食材と調味料は会員に協力を求め調達しているそうです。

仕出しボランティアの活動は、会員に協力を呼びかけながら交替で行っていますが、避難所から仮設住宅への入居が終了する頃をメドにいったん終了します。しかし、組織として長年の活動実績と培ってきた人脈を最大限に活かし、今後も被災者のニーズに対して継続的な支援を行っていく予定だそうです。

(真壁さおり)

仙台男子厨房に入ろう会

【代表者】亀井重信

【連絡先】仙台市青葉区大町2-8-1

TEL/FAX 022(215)4267

【E-mail】office@danchu.jp

【ウェブサイト】http://www.danchu.jp/

市民活動サポートセンターからのお知らせ

■10月1日(土)からの一般利用再開に伴い、貸室申込受付を再開します。

- 申込受付の開始日
 研修室：ご利用日の3ヶ月前から
 セミナーホール：ご利用日の6ヶ月前から
 市民活動シアター(全日)：ご利用日の6ヶ月前から
 市民活動シアター(区分)：ご利用日の3ヶ月前から

- 受付時間 平日午前9時～午後9時
 日祝午前9時～午後5時
 ※電話予約は、申込受付の開始日の午後2時から行います。

- なお9月から、第2・第4水曜日が休館日となります。

■なお現在は、震災後の復興まちづくり支援の一環として、貸室を無料でご利用いただいております。(9月30日(金)まで)

- 研修室、セミナーホール(無料)
 対象期間：9月30日(金)まで
 用途：打ち合わせ、会議、イベント、研修等
- 市民活動シアター
 復興支援活動のためのイベント等で、市民活動シアターも無料でご利用いただけます。
 対象期間：7月1日(金)～9月30日(金)
 ※先着順で受け付けております。
 詳細についてはお問い合わせください。
- シニア活動に関するご相談も受け付けております。
 相談時間：午前10時～午後5時

■ロッカー・レターケース使用団体を募集します。

ボランティアや市民活動団体など、自発的で公益的な活動を行う団体が利用できます。ロッカーは活動に必要な荷物の収納場所として、レターケースは団体宛の郵便物・FAXの受け取り先としてお使いいただけます。

- 使用期間
 ロッカー：2011年9月1日～2012年8月31日
 (ただし8月31日は入れ替え日の予定)
 レターケース：2011年9月1日～2012年8月31日

- 募集数・使用料
 ロッカー(大) 10個・1,200円/月
 ロッカー(中) 28個・800円/月
 ロッカー(小) 80個・400円/月
 レターケース 168個・無料

- 申込受付期間：7月6日(水)～7月25日(月)
 午前9時～午後9時(日曜・祝日は午後5まで)

- 申込方法：
 サポートセンターで配布する申込用紙で申し込み
 ※ホームページから申込書をダウンロードできます。

東日本大震災を受け、復興支援活動に取り組む市民活動団体・NPOがサポセンをご利用いただく際は、事前に「復興支援活動団体利用受付シート」の提出をお願いしています。3月28日から6月30日まで、205団体からの利用受付シートのご提出がありました。

このシートは、サポセン1階に掲示し、ブログ等にも掲載します。

また、団体からのご要望に応じて、10日毎に発行している「サポセンかわら版」にも掲載いたします。団体活動の詳細はこちらをご覧ください。

●復興支援活動情報ブログ

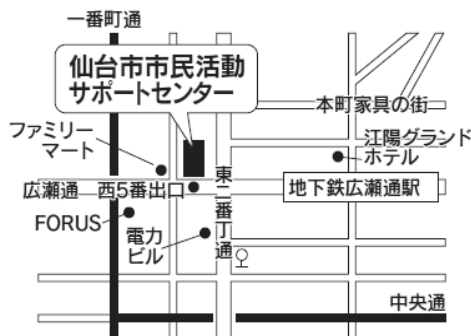
<http://blog.canpan.info/fukkou/>



■案内図

[最寄のバス停]
 電力ビル前
 商工会議所前

[地下鉄]
 広瀬通駅下車、
 西5番出口すぐ



■編集後記

被災しながらも元気に活躍する市民の皆さんの姿に、東北・仙台の力強さを感じました。仙台のまちが復興へ向けて歩み始めているのは、震災後、世界中から寄せられたあたたかい気持ちのおかげです。これからも、復興へ向けて歩む仙台のまちの様子を感謝の気持ちを込めて伝えていきたいと思えます。(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2011年7月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 真壁さおり

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]